

活動報告

アクセス関西ネットワーク

島本 卓

1. はじめに

私は、7月11日(水)大阪府障がい者社会参加促進センター2Fで行われた運営会議に、初めて参加してきました。アクセス関西ネットワークとは、近畿2府4県の障害者団体や障害者が集まって、日常の交通アクセスの取り組みや情報交換を行う活動をしている。

2. 印象

私が一番に感じたのは、いろんな障害の当事者が参加していたことです。そして、当事者の経験や事例を出し、また意見を出し合うなど、全員が発言していて新鮮な会議でした。

3. グループワーク(課題編)

午後からは二コマに分け「課題」、「課題の解決策」とし、グループワークを行いました。3つのグループに分かれ、私のグループは無人駅についての内容を話し合いました。意見を出していく中で、まだまだ多くの無人駅があることを知りました。私の知識不足によって、「大阪はほとんど駅員が常駐」しているものだと思っていました。なぜなら利用客の多さから考えると、ありえないと思ったからです。

続いて、グループの方の事例を聞いたとき、まだこんな地域があるんだと驚きました。その内容は「電車に乗車する際のサポートができて、降車の際は駅員の派遣が難しいという」ことでした。ほんとうに、ありえないと言うか。2020年のオリンピックと言われている現在に、あってほしくない内容です。

その他の事例でも、電車に乗りたい希望日の2日か前に連絡をするなんて内容も出ました。

4. 移動への思い

私たちにとって移動は、やはり目的地へ行くための手段であると、考えられている方も多くいると思います。その場合、移動する際にこだわらず、目的地に速く安全に、移動がしたいと考えること

は当たり前です。私たちが希望する時間に、利用できれば、もっと多くの障害者が外出はもちろんのこと、社会参加のきっかけになると思います。しかし、現状は変わるどころか放置されたままの課題も残されています。今後、誰もが使いやすい環境にするために、どう訴えていくべきなのか、グループワーク(課題の解決策編)へ続く。

4. グループワーク(課題の解決策編)

私が住んでいる最寄り駅も、実は特急が止まらない無人駅なんです。今の地域に引っ越しをしてきて、2年が過ぎました。毎回利用する際は、改札横にある駅員呼び出しボタンでスロープの対応を頼んでいました。頻繁に利用した結果、駅の連絡先を教えてもらうことができ、利用前に連絡すると希望時間に対応してもらえるようになりました。

私が解決策として考えたのは、利用する方がいるかが大きく環境を変えるきっかけになると思います。最寄り駅があるから利用するといった考え方です。自分が使うだけでも、大きな意味があると思います。しかし、特定の利用者だけになってしまう恐れもあるので、車椅子の知人に来てもらうなど「この駅は、車椅子の方が使う」と思ってもらいたいと思います。

事例の一つで「電車に乗車する際のサポートができて、降車の際は駅員の派遣が難しいという」現状も聞くことができました。駅員さんに訴えた結果、車両にスロープを積んでもらうことで、利用がしやすくなったと言っておられました。

6. まとめ

自分がその場面に遭遇しなければ、困ることも考えることも、なかったと思います。アクセス関西に参加したことによって、移動のしやすさを考え直すきっかけになりました。みなさんの周りにある課題を、アクセス関西にいる仲間と考えてみませんか。一人で悩まず、みんなで解決しよう！